



福島市ボランティア連絡協議会便り

第100号 令和 6年 9月 4日
発行責任者 福島市ボランティア連絡協議会
会長 佐藤 寛
Tel 533-2821 Fax 533-8879

会長 就任のごあいさつ

2024年5月21日に開催された総会において会長に就任しました手引きサークル「歩み」の会長をしている 佐藤 寛と申します。視覚障がい者が外出する際のお手伝いサークルとして1987年8月9日、手引きサークル「歩み」を結成しました。視覚障がい者との芋煮会、信夫山散策、歩くスキーなど実施してきました。また、手引きの講習会を小学校、中学校、大学等で開催し、手引きの大切さを知っても合う活動を通して、視覚障がい者への理解が深まればと思っています。

この間、1990年7月24日から福島市ボランティア連絡協議会に加盟し、ふれあい広場の運営、視察研修等協議会の事業運営にも誠心誠意つとめてまいりました。

1976年に発足した本会も、まもなく50年の節目を迎えようとしています。会員の高齢化も進み、いろいろと不都合なところが出てきてはいますが、皆さまと相談しながら、知恵を出し合って、無理なく、楽しく、長く活動したいものだと思っています。



会長 佐藤 寛

総会・ミニ研修（共同募金について）

令和6年度の総会、ミニ研修を、13名の会員の出席のもと、福島市中央学習センターで行いました。ご来賓に福島市社会福祉協議会常務理事 菊田悟様をお迎えし、ご挨拶をいただきました。今年度は役員改選の年で、会長が田中幸治さんから佐藤寛さんに引き継がれ、副会長の村上博彦さん、武田淑子さん再任。新たな事務局長に武田淑子さん（兼務）、監事に三浦慎也さん、佐藤瑞慧さんが就任されました。田中前会長はじめ、前役員の方々に感謝するとともに、新体制のもと、皆さまの変わらぬご協力のほどよろしくお願いいたします。また、総会後のミニ研修では、福島市社会福祉協議会の安部様、古山様に講師をお願いし、赤い羽根共同募金について、募金の配分先などについて詳しく教えていただきました。誰もが住みよい社会、助け合える社会の実現のため、様々な施設や団体の活動に配分されている他、近年増えている災害においても、災害ボランティアセンター設置の支援にも使われていることなどを伺い、出席した会員からは、「こんなにいろんな方面に使われているとは思いませんでした」という驚きの声もありました。

お忙しい中、ご臨席くださった福島市社会福祉協議会の皆さま、会員の皆さま、本当に

ありがとうございました。令和6年度も昨年同様、三回の研修会のほか、街頭募金、ふれあい広場、障がい者スポーツ大会等への協力も計画されています。今年度もみなさまのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



令和6年度研修会Ⅰ

～フタバスーパーゼロミル・震災遺構 請戸小へ～

今年度初めての研修会を、7月31日（水）に実施し、18名の会員さんに参加いただきました。今回は、新しくなった福祉バス（はっとり号）を利用させていただき、双葉町の復興をリードする「フタバスーパーゼロミル（浅野燃系株式会社双葉事業所）」さんと、震災の被害の甚大さや防災意識の大切さ等について学べる震災遺構請戸小学校さんを訪問しました。

午前中、浅野燃系さんの塙様より、浅野燃系さんの歴史や福島の被災地へ進出して下さったいきさつ、スーパーゼロミル技術（特許取得）のすばらしさ等についてお話や実演をしていただき、実際に工場内で糸がつけられている様子も見せていただくことができました。双葉町の復興の拠点として、交流人口300万人を目指すという浅野燃系さんの熱い思いに、被災地復興への希望を感じることができました。また、お昼には、浪江産のしらすを使ったパスタランチなどを、復興を感じながら美味しくいただきました。

午後は、浪江町の復興に取り組まれている「まちづくりなみえ」さんの菅野様にガイドをお願いし、震災当時の避難の様子などについてお話を伺いながら、実際被害にあった請戸小学校の様子を見学してきました。震災の記憶が薄れつつある中、請戸小の建物の惨状と一人も犠牲者を出さなかった避難のすばらしさに、今一度、防災について考えるよい機会となりました。



お世話になった浅野燃系株式会社双葉事業所・請戸小学校・まちづくりなみえのみなさまお忙しい中どうもありがとうございました。

横のつながりできました

5月29日（水）
手引きサークル
「歩み」さんと
一緒に、本会会
員2名が手引き
ボランティアに
協力しました。



昨年度の研修で学んだ「手引き」を活かし、視覚障がい者の方のお手伝いができとてもよい経験となりました。これからも、他のサークルさんの活動について学びながら、会員さんのボランティア活動の幅を広げていくことができればよいなと思います。